

物理学委員会・化学委員会合同分科会の設置について

分科会等名：国際周期表年記念事業検討分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	○化学委員会 物理学委員会
2	委員の構成	15名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	<p>タラソバ前IUPAC会長を中心として国際周期表年(International Year of the Periodic Table of Chemical Elements; IYPTはその呼称である)の発起書がUNESCOへ提出され、2019年が国際周期表年として決定された。IUPACに対する日本代表機関である日本学術会議(化学委員会)は2019年の日本国内における国際周期表年に関わる事項を扱い、国際周期表年に関する事業を推進するため、それらが完了する2019年を含む2020年度末まで活動する分科会として世界周期表年記念事業検討分科会を設置することを提案する。</p> <p>国際周期表年は、2019年がメンデレーフが周期表の完成を予測した1869年から150周年を迎えることを記念するために制定され、同時に、ニホニウム(113番元素)等の超重元素の発見により周期表の第7周期が完成したことを祝うものである。化学と物理の双方にまたがる事柄であるため本分科会は化学委員会と物理委員会に所属する形で設置し、化学と物理の委員の双方の協力のもと各種日本における国際周期表年記念事業について検討していく。</p> <p>また、本分科会を設置した後に、日本学術会議メンバーと有識者をメンバーとし、各種事業を実施する実行委員会を設置し、啓発活動を行う。日本化学会、日本物理学会をはじめとする化学系・物理系の協力学術研究団体、超重元素発見に大きく貢献してきた理研仁科センター等に協力を要請し、各種事業の推進を促進する。</p>
4	審議事項	<p>1. 2019国際周期表年記念事業実行委員会の設置</p> <p>2. 2019国際周期表年記念事業の実施計画のモニターならびに意見交換を行う</p>

		3. 各種学協会との連携について検討 等に係る審議に関すること
5	設 置 期 間	平成30年5月31日～平成32年3月31日
6	備 考	※24期にて初設置